



鳩山由紀夫理事長
若い力が育っていることが何より嬉しいと語った



友愛ユニオンのメンバーが傍聴。最後に各人感想を述べた。
後藤大智さん・吉田大志さん・森崎桃子さん（写真おくらから）

第二十六回通常理事会開催

新たな年度に向けて闊達に意見交換

友愛ユニオンメンバー傍聴参加

二月三日（金）午後六時より、友愛サロンにおいて第二十六回通常理事会が開催され、二〇二二年度に向けての事業計画及び事業予算について盛んな意見交換が行われた。
本年四月には、当財団創立七〇周年を迎えることから、七〇周年記念式典開催を含む記念事業についても議論がなされた。

平日にも関わらず全員が早めに集合、理事会は定刻に開始された。

出席者（継承略）

鳩山由紀夫 井上和子
茂木健一郎 中島政希 芳賀大輔 西川伸起 井田安信 南幸信 攪上哲夫
山寄偉広 山口千恵子 金沢俊弘 海方 亨

現状の事業報告は、即ち次年度の事業計画につながることから、報告及び計画を合わせ担当理事から詳細

理事長挨拶
皆様の協力を得て、四月には友愛発足以来七〇年という、大きな節目の年を

友愛ユニオンのメンバーが傍聴。最後に各人感想を述べた。

後藤大智さん・吉田大志さん・森崎桃子さん（写真おくらから）

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費（4月～3月）

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

迎えるに至りました。祖父鳩山一郎が「友愛青年同志会」を興した頃と、七〇年を経た現在は、様々な社会の状況が変わってきています。しかし、今、戦争、クーデターと諍いに苦しむ人々がいる今、今ほど友愛精神が求められている時は無いと思います。
私たちはこの大切な友愛精神を、平和のために広めていく義務があります。今後とも皆様のお力を結集し、友愛の思いが伝わるよう邁進して行きたいと思っています。
今日は友愛ユニオンから三名の有志が傍聴に来てくれています。積極的に友愛の活動に参加してくれているのです。未来に続く人材が育っていることは、何より喜ばしいことです。こうした機運をさらに高めて、次年度の事業をご協賛いただきたいと思います。

事業別報告及び計画
ミヤンマー農業指導者育成事業／井田安信理事
皆様ご承知の通り、現在のミヤンマーとは往来が来ない状態が続いています。が、七年間に及ぶ事業実施の中で、現地の農業生産向上のためには、肥料が必要であるという方向に問題点が要約されて来しました。幸い、南幸理事がご尽力くださり、母校である東京農工大学の教授陣のご協力を得ることができました。次年度は、日本国内で「堆肥・緑肥」の作り方、使い方を勉強する機会を提供し、その知識を本国に持ち帰って普及するというかたちを軸に、事業を進めて行きたいと考えております。
OEJAB派遣・受入事業／西川伸起理事
二〇二〇年からコロナの影響で中断しておりました派遣事業が、昨年九月には実施され、私も現地に行か

せていただき、OEJABの方々と今後について話をしました。また、三月十七日には、残りの学生が、既に社会人になっている者も含めて、十二名がOEJABを訪問する予定です。
派遣は出来ないものの、募集は毎年続いております。年々応募の人数も増えていることから、この事業は順調に成長、推進されていると考えております。
派遣員経験者で構成されている「友愛ユニオン」の活動も、回を重ねる毎に人数も増え、有意義な意見交換が行われています。次年度は是非、受入も実施できるように、OEJABとも話し合ってきたましました。ユニオンのメンバーにも協力を仰ぎ、有意義な受入事業が行われ、若者たちに友愛の理念が伝わっていく事を目指したいと思っております。
友愛国際写真コンクール事業／南幸信理事
現在中国では、順位を付けて表彰するという状況が認められておりません。従って、残念ながら写真コンクール事業は一旦休止を余儀なくされております。本事業はコンクール、表彰事業として内閣府の承認を得た事業ですので、根本的なところで無理が生じております。

また、本事業は予算の規模としても大きいことから、当面は休止して、その予算を別の事業において活用されるのがよろしいのではと考えております。
友愛小論文コンテスト（私にとつて友愛とは）事業／攪上哲夫理事
二〇二一年度は、Webを活用して鳩山由紀夫理事長にもリアルタイムでご登壇いただき、茂木理事のご講演、茂木理事と鳩山理事長との対談などを中心に実施することができました。お手元にお配りしたのは、その折に寄せられた小論文の作品集です。これは北京語言大学にもお送りし、学生に配布することができました。しかし、やはり中国の方針の影響で、講演会を開催するにもかなりの手続きが必要となり、二〇二二年の対象大学は二校決まっています。実施は現実には本年四月になる予定です。とはいえ、この作品集を見ても解る通り、本事業は、友愛理念を若者に伝える大切な機会であると思われ、若者たちに友愛の理念が伝わっていく事を目指したいと考えております。同時に中国に限らず、韓国など広くその機会を求めて実施できるように、次年度の事業計画に盛り込んでおります。
創立七〇周年記念事業／芳賀大輔理事
記念式典に関しては、これからさらに議論を進め、適当な時期に開催する方向で考えております。鳩山一郎先生が創設して以来、七〇年間友愛活動を続けてこられたことに、我々も誇りと責任を以て、式典を開催したいと思っております。また、これまでの活動をまとめた年表を基準に、目で見やすいアーカイブとして、DVDの作成を行っております。これは羽中田事務局長が中心となってまとめてくれています。もう一つ、動



時節柄マスクを付けて会議に臨む理事・監事の皆さん。
活発に意見が交わされ、監事も誉める実働の理事会である

画で構成されたDVDの作成も進んでおり、二枚のDVDを組み合わせて「記念誌」とする方向です。運営委員会の方で詳細を煮詰めて、理事会に諮りご承認をいただきますが、進めて参ります。

この後、茂木健一郎理事・井上和子理事から、七〇周年記念事業の中心テーマを「和（和み）」として組み立てて行くのが友愛理念に合致しているのではないかと意見が述べられた。

鳩山由紀夫議長から「以上を基に、次回理事会に於いて、最終的な事業計画、事業予算を確定するように計ります」との発言があり、これを以て理事会は終了した。

友愛時評

▼日本でもコロナ禍が収束しようとしている。実は二〇二〇年半ばのパニック時よりも感染者数も死亡者数も増えているのだが、もはや気に留める人はほとんどいない。感染症の専門家の中には感染防止対策の緩和に警鐘を鳴らす者もいるが、ようやく社会経済活動の正常化に舵を切ったというところだろう。▼先日行われた卒業式の後には、朝方まで卒業生たちと飲み歩いた。四年ぶりで忘れかけていたが、頼りなかった学生たちが成長して立派に旅立つ日に酌み交わす酒は最高に旨い。歓送会も本格的に再開したのだろう、当地の繁華街にも明け方まで人影が途絶えることはなかった。東京を皮切りに、観測史上最速で桜も咲き始めている。今年のお花見はコロナ明けを祝う宴として、なお多数派であるマスクを人々に外させることにも影響するだろう。▼四月の新学期から一気に感染症対策を撤廃できるだろうか、いや「五類」への移行は五月の連休明けなので段階別にならざるを得ない。云々と専門家を交えて議論をする中で、ハッとさせられた。基礎疾患があったり何らかの理由でワクチンを打てない人など「ハイリスクグループ」への配慮をどうするか、という点である。教室で口角泡を飛ばして激論し、学食で大人数で談笑するかつての「日常」への復帰は、そうした人々にとつては恐ろしいものかもしれない。だが「コロナ終息」のお祭りムードの多数派に抗うことは難しいだろう。▼考えてみれば、少数派に対する配慮というのは、新型コロナに限った話ではない。まさに友愛の精神を活かすべき時である。（ヒゲ）

二〇二二年度OEJAB派遣第二陣 派遣員が語る「期待と抱負」一挙掲載

二年越し、三年越しの参加者も派遣実現の喜びを 先輩後輩入り交じっての総勢十二名

新型コロナウイルスの影響で、二〇一九年を最後に、実施が中段されていたOEJAB派遣は、二〇一九年度以来三年ぶりに実施が復活した。既に九月には第一陣がオーストリアを訪問、二〇二〇年・二〇二一年に派遣員となった者にとっては待ちに待った派遣実施である。派遣実施が出来ない中、募集は毎年続けており、応募の数も年々増加し、全国各地から集まった精鋭十二名が第二陣として今回の派遣となった。各人に期待と抱負を綴ってもらったので、今回紙上で一挙掲載、全員分をご紹介します。(掲載順不同)

「待っていた三年間」 に学んだ友愛を基

東京医科歯科大学歯学部
歯学科五年

小倉 佑太

はじめに二〇二〇年度OEJAB派遣員としてご選抜頂き、これまででない貴重な経験をさせて頂けましたことを大変光栄に存じます。友愛のOEJAB派遣生としてオーストリアに向かい、一〇日間を通して外

二〇二〇年度派遣員

小倉 佑太さん



務省や難民支援の現場を訪問し、現地の情勢に触れることでオーストリアの人々が抱える問題とその解決策について考えて参りたいと思います。またウクライナにおける戦争難民問題、CTBTに対する理解など未だ日本では日常に浸透していない問題があります。そうした課題に直面している国が何を考え、どう対応しているのか。そして日本がこうした問題に直面したとき私たちはどうするべきか。より多角的な視点から物事を見つめ自分なりの思考を確立するための場にもしたいと考えております。

併せて今回は派遣員団長としても責任のある立場を務めさせて頂きます。高い志をもつメンバーと協力し、この派遣事業がオーストリアと日本の架け橋となるよう努め、派遣員全員が目標達成の場となるよう最大限努力して参りたいと思います。

OEJAB派遣生に選ばれてから三年が経ち、本年

ついに待望のオーストリア訪問が実現することとなりました。しかし、コロナの影響で活動が制限されながらもこの三年間は、友愛の勉強会や交流会で友愛のメンバーとして活躍してこられた多くの方とお話を伺う機会を頂きました。またユニオンのメンバーと意見交換をすることができました。

「友愛」について話を聞く中で、どの方も人と人との繋がりを重んじておられ、自己完結させないという点がとても印象的でした。誰かが困っていたら手を差し伸べ、自分が困っていたら自然と誰かに支えてもらええる環境、その相互扶助の中で生み出される調和がまさに「友愛」というものののだと強く感じました。またそこに自分なりの独創性を加えることでさらに革新的な創造やこれまでにない新たな発想が生み出され、さらに洗練された活動へと繋がるのではないかと考えるようになりました。私にとっては、必要な

応募時からの変化 と変わらない想い

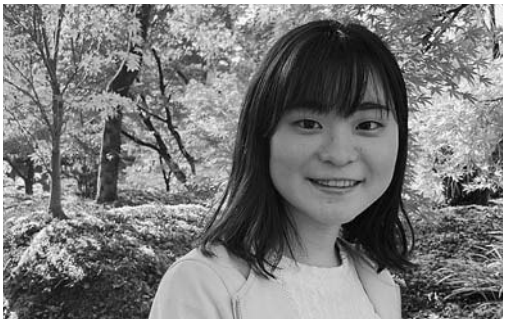
九州大学法学部卒業

田島 桃子

大学三年時に派遣員として、友愛ユニオンの一員に加えていただいてから早三

二〇二〇年度派遣員

田島 桃子さん



れる友愛ユニオンの仲間が同じ物事に関して、どのように感じ・考えるのか。互いの受け止め方を共有していくことで、新たな気づきが得られると考えています。

今日まで渡航を調整し、機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

三年の時を経て変わらないう想いを胸に、上記テーマへの学びと共に、ウィーンの空気を肌で感じ、現在の自分を見つめ直し、今後の目標を新たにする派遣として

三年越しのオーストリア派遣に向けて

東京医科歯科大学医学部
医学科六年

龍 舞香

二〇二〇年度にOEJAB派遣生として選抜していただきました東京医科歯科大学医学部医学科六年の龍 舞香です。

二〇二〇年度派遣員

龍 舞香さん



本当にオーストリアに行ける日が来るのだろうかという気持ちを数年間でしたが、二〇二三年三月やっと派遣が実現し、とても嬉しく思います。パンデミックの状況下でも学びの場の提供や派遣事業を続けようと策を巡らせてくださった事務局の方には大変感謝しております。

本稿を書くにあたり二〇二〇年に私が寄稿していた抱負を読み返してみると、「自分より恵まれない環境の人を助けたい」というようなことを書いていました。当時の私は、国際協力は支援する側とされる側という構図で成り立っているという考えのもと、支援が必要な人に手を差し伸べる

ことこそが正義であり友愛であると信じていました。しかし、派遣の延期期間中に得た様々な学習機会や友愛メンバーとの意見交換を通して、国際協力は、支援する側とされる側という構図ではなく、双方にとって好循環であることが重要であるという考えに至りました。私たちもまた支援をしていく中で自国に還元できる学びが得られるということとです。

難民としてオーストリアで生きる人々と彼らを受け入れるオーストリア国民・政府との交流を通じて、難民がどのような支援を必要としているのか現地の人たちと一緒に移すだけを考え、実行に移すだけでなく、そこで得られた知見を日本にも還元できる人材になりたいと思います。また、この研修を通して

世界を相手に働く意義と魅力を見出し、帰国後は世界平和を真に願ひ共志す仲間が一人でも増えるよう、ここで得た経験を積極的に発信していきます。

二つの目標を掲げて

東京大学大学院
工業系研究科卒業

佐野 翔子

まず初めに、OEJAB派遣の一員に選抜頂き大変嬉しく思います。私は以下の二点を抱負として本派遣に臨みたいと思います。まず一つ目に、新しい価値観に溶け込むことで自分の解釈の幅を広げることです。世界には私が未だ出会ったことのない人や考え方が多く存在します。日々の生活の中でも発見はありますが、全く違う文化に触れることで気づきが顕著になると思っています。全てを知ることは難しくとも、自分と違った当たり前で生きている人がいることを心においておくだけで無知によって誰かを傷つけたりする

二〇二二年度派遣員

佐野 翔子さん



リスクを減らせます。今回訪れる街の人々、風景といったあらゆるものにも素直に向き合い、得られた感覚を大切にしたいと思います。その中で、日々の生活に隠れている大事な存在に気づくかもしれないし、新しく大事にしたいものに出会えるかもしれません。帰国後の活動や周囲の方々への関わりに生かせる心の豊かさを体得する機会にしたいと思います。

二つ目は、難民問題を今回の派遣を通してじっくり考えることです。恥ずかしながら、私は難民問題に特に精通しているわけではありませんが、ただ、今回そんな自分の意識を変えるきっかけとなるのがこの派遣だと思います。当事者ではない私が、この課題に取り組むのは正直そんなに簡単ではないし、自分の生活を一生懸命生きること自体はとても素敵なことだと思えます。ただし、世界では何が起きているのか、私なりの言葉で感じたことをきちんと言語化して届けることが一つの価値提供のあり方かなと思います。

上述の抱負を胸に有意義な派遣にできればと思います。

異文化との出会いから生まれる新たな視点

名古屋大学
情報学部 四年

田内 和久 ラザルス

この度オーストリア派遣の学生として選んでいただ



二〇二二年度派遣員
田内和久ラザルスさん

きました、田内和久ラザルスと申します。

私にとってオーストリア訪問は二〇二〇年のCOVID-19の世界的な大流行が始まって以来初の海外への渡航となります。アフターコロナの世界へ向けて一歩先へ踏みだしているヨーロッパではどのような日常生活が送られているのか、流行以前の生活に元通りになっているかなどを実際に体験できる非常に貴重な機会だと考えております。またこの体験を通じて日本でのアフターコロナに向けて個人や社会がどのように動いていけばよいかについて考えられる重要な機会でもあると思います。

今回の派遣員としての訪問で、私は学部時代に大きな関心を抱いた難民問題に関して直接自らの交流・経験を通じて、講義やインターネットでは外面的にしか見ることができなかった問題を内側からの本質的な側面から垣間見たいと考えております。特にCOVID-19の流行以来、多くの物事が



二〇二二年度派遣員
女鹿 笑奈さん

オンラインで行われるようになり、実際に経験できることの貴重さを痛感しました。百聞は一見に如かずの言葉の通り、この派遣を通じて新たな視点や考え方を持つことができるようになりたいと考えております。

また帰国後もただ一つの経験として終わりとするのではなく、私が関心を抱く難民問題に関して認知度の低い日本において、より多くの人々に難民問題の現状を知っていただき理解を深めてもらえるように、情報学の知見を用いながら自分の現地での経験や学んだことを世の中に発信できるように取り組みたいと考えております。

道標を掴む一歩となれ

東北大学医学部
医学科四年

女鹿 笑奈

この度は友愛OEJAB派遣員に選んでいただき、ありがとうございます。

コロナ禍における渡航規制等により、海外留学の断念を余儀なくされ、海外経験を積むことすら難しいこれまでの大学生活でした。

いただいた貴重なチャンスを存分に活用し多くの事を吸収したいと思います。

大学ではグローバルに活躍する医師を目指して日々医学と向き合っています。

各国のCOVID-19対策一つをとっても分かるように、世界共通の問題であっても場所が変われば見え方が変わるということを強く感じています。現地の方々と積極的にコミュニケーションをとり、オーストリアで生活する人々から見える景色を学ぶと共に、日本国内で培った自分自身の認識を見つめ直す機会にしたいと思います。

私が思う、このプログラムの大きな特徴は、難民問題や核問題を含む社会問題の解決や、より良い外交関係の構築に最前線で挑んでいる場所を訪問できるという点です。かつて英語ディベート部に所属し、国内外の社会問題について日々議論していた時には机上の空論であったそれら問題に、実際に立ち向かっている場所を訪れ学ぶことができるのはとても楽しみです。「友愛」の精神をもってこれら世界の難題に立ち向かい、解決への道標を掴むべく、現状に触れ知見を深めたいです。

昨年十二月の事前勉強会で出会った派遣員の皆さんは、それぞれ異なる背景を持って集まっており興味を惹かれる人ばかりでした。

友愛の精神を大切に、共に充実した一〇日間を過ごせることを楽しみにしています。

自分に何ができるか

東京大学教養学部
文科一類二年

堆 美優

私は今回、オーストリアで移民・難民に関わる人々やその活動をこの目で見ることで、長らく興味を持っていた学んでいる難民問題についてさらに理解と知見を深め、学業や将来の活動に活かしたいと考えています。

自力では訪れられないような機関への訪問、そして難民の方々との交流は、友愛からの派遣だからこそ経験できることに違いありません。

難民問題は、日本に住んでいてはなかなか現状の深刻さに気づくこともできず、我々日本人は世界各国が有する責任についても看過しがちだと思っています。



二〇二二年度派遣員
堆（あくつ）美優さん

す。私は将来、枠組みの部から変革を起こし、日本において難民の方々が支援できるような仕組みを作れる、そんな人材になりたいです。

大学では国際関係論を専攻しており、今後は難民・移民問題について専門的に学びたいと考えています。

派遣員として現地で感じたあらゆる想いや経験を、帰国後はその探究に生かしていきたいです。私は、本派遣の終了後大学の交換留学プログラムを通してドイツのミュンヘン大学に一年間留学します。今回の派遣員としての経験がドイツでのさらなる学術的理解を助けるものとなり、自分、ひいては日本の将来的な国際貢献に生かせるものとなるように、一つ一つの活動から多くを吸収し、一回り成長して帰ってきたいです。

最後に、この場をお借りして私たちの派遣を可能にしてくださっている全ての皆様に心より感謝申し上げます。このような素敵でまたとない機会に恵まれた奇跡と、友愛ユニオンという仲間との出逢いに感謝し、目一杯楽しんで帰ってきます！

交流を通じて見識を深める

東北大学
工学部 四年

藤田 脩椰

この度国際交流事業OEJAB派遣員に採択いただきました、東北大学工学部四年の藤田脩椰と申しま

す。採択いただきましたことを光榮に思うとともに、このような貴重な機会を得られることを大変ありがたく思います。

今回の派遣プログラムでは、訪問先機関での交流を通じて異なる文化的背景を持つ方たちの融和の実際について肌で感じられるものと期待しています。

私の所属する研究室には、発足から現在に至るまでに数多くの留学生・研究員が訪問・在籍してきました。手前味噌を承知で申し上げれば、弊研究室では多文化共生が実現されてきました。この背景には、密なコミュニケーションを図る習慣があること、異なる文化に対して寛容な雰囲気醸成されてきたことがあろうと考えています。しかし難民問題に目を向けたとき、彼らが飛び込まずに社会において同様の状況を実現することは必ずしも容易とは限りません。

弊研究室での例はあくまで一例に過ぎず、規模、歴史的背景、文化的寛容度、



二〇二二年度派遣員
藤田 脩椰さん

つながりの強さなど、様々な異なる属性を持つ社会においてどのようなアプローチが実現可能であるか、あるいは通用するかということに関して述べるには、私はまだまだ世界に対して管見であります。今回の派遣プログラムにおいては、実際の交流を通じ見識を深め、より多くの社会において融和を実現する方法論について考察を深めたいと考えています。

また、共に派遣される他のメンバーとも交流を深めそれぞれの志を実現するための切磋琢磨の機会にできるよう、日々全力で過ごします。

自らの課題を解く鍵を見つめたい

東京医科歯科大学
医学部医学科三年

弟子丸 香歩

この度は、OEJAB派遣学生に選抜していただきありがとうございます。

私は高齢者のQOL（生活の質）改善に強い関心があります。高齢者が健やかに生活できるような医療を開発するために大学では口コモティブシンドロームに関する研究に取り組んでいます。今回の留学ではOEJAB運営の高齢者施設を見学し、高齢者の方と対話することで、どのようなケアを必要としているのか、弱い立場の方にどのような寄り添えばよいのか、という問いへの答えを見つけて鍵を得たいと考えています。またCOVID-19流行下

